



名古屋の偉人伝

No.22

天野信景(あまのさだかげ)の巻

ここがスゴイ！

全千巻ともいわれる膨大な量の随筆「塩尻」の作者。「尾張風土記」の製作に関わり、尾張藩の編纂した最初の地誌「張州府志」に大きな影響を与えた。



当館所蔵資料「志保之里(しおじり)」。伝信景自筆本。

こんな人生を送ってきました(経歴)

寛文元(1661)年名古屋城下に生まれる。貞享元(1684)年父の跡を継いで藩の寄合役になる。元禄 11(1698)年、尾張藩主徳川綱誠より、吉見幸和・真野時綱とともに「尾張風土記」を作ることを命じられる。翌年、綱誠の死去とともに出版計画が中止。正徳 5(1715)年先手鉄砲頭を務め、享保 8(1723)年病氣を得て辞職。享保 15(1730)年隠居、享保 18(1733)年病没。

人柄は温厚で、あらゆる方面で多くの書物を読み、広く物事を聞き知って、またよく記憶していたという。特に古い時代の書物に詳しく、伊勢物語に出てくる言葉で古来より謎とされていた「しほじり」の意味を解き明かした。(代表作「塩尻」の冒頭部にあたり、タイトルの由来とされる。)文武両道で風流人だったとも伝えられている。

信景の死後になる宝暦 2(1752)年、松平君山が尾張最初の藩撰地誌「張州府志」を編集。その時に信景の書き残したものを数多く取り入れた。天明 2(1782)年、門人の一人が『塩尻』百巻を編集する。『塩尻』は神道、国学、儒教、政治、歴史、地誌、言語、天文、武術、工芸など様々なことにわたって記したもので、その内容範囲の豊富なところに特色がある。信景が残したものは全一千巻ともいわれるが、そのほとんどが失われてしまった。

もっとくわしく知りたいあなたに(参考文献)

- 『愛知に輝く人々7』(愛知県小中学校長/編 愛知県教育振興会 1986年)
- 『天野信景の研究』(大鳥居武司/著 大鳥居武司 2008年)
- 『新編愛知県偉人伝』(愛知県教育会 愛知県郷土資料刊行会 1972年)
- 『名古屋叢書 第18巻』(名古屋市教育委員会/編 愛知県郷土資料刊行会 1982年)
- 『日本随筆大成 第3期』13~18巻(日本随筆大成編集部/編 吉川弘文館 1977~1978年)
- 『尾藩知名人年譜抄2』(いちはし・たく/著 市橋鐸 1979年)